

# 農林水産大臣賞受賞

めざすは地域の活性化 ふるさとへの思い

受賞者 げんかい 玄海みなとん里株式会社 さとかぶしきがいしや  
さがけんからつし  
(佐賀県唐津市)

## ■ 地域の沿革と概要

唐津市は佐賀県の北西端に位置し、昭和7年に市政を施行し、昭和16年に佐志町と、昭和29年には鏡村、久里村、鬼塚村、湊村が合併し、更に平成17年から19年にかけて1市6町2村（唐津市、浜玉町、厳木町、相知町、北波多村、肥前町、鎮西町、呼子町、七山村）が合併し、現在に至っている。

市の北西に位置する東松浦半島の大部分を占める上場台地は、様々な条件により農業生産性が低い地域であった。

このため、「上場台地に水と道を」を合い言葉に、国営事業で農業用水の確保と農地造成を、県営事業で農業用水の末端整備や区画整理、農道整備が行われた。

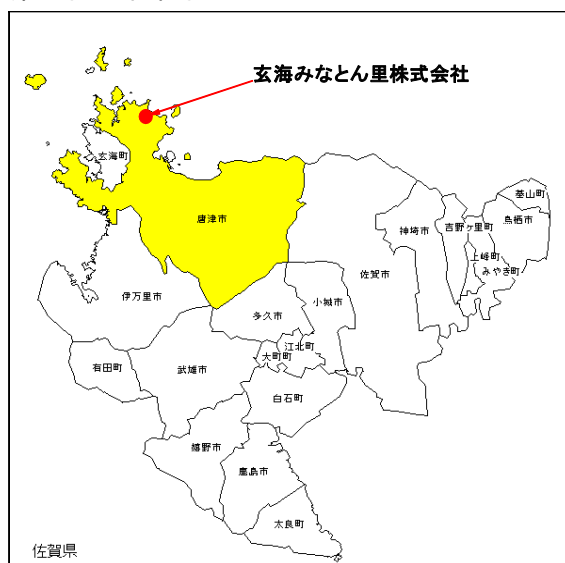
このことにより、上場コシヒカリなど特色ある米づくり、ハウスミカンやいちご、玉葱などの作付が拡大し、高品質な肉用牛の生産拡大などが積極的に行われるようになった。

## ■ むらづくりの概要

### 1. 地区の特色

「玄海みなとん里株式会社」は、唐津市北西部の湊町（みなとまち）に位置し、湊町岡・湊町浜・屋形石（横野、中里を含む）・相賀（おうか）の4地区から構成され、平成21年3月現在の人口は3,300人、世帯数1,102戸、高齢化率は27.6%となっている。

第1図 位置図



※ 白地図 KenMap の地図画像を編集

第1表 地区の概要

事項	内容	
地区の規模	旧市町村単位の集団	
地区の性格	機能的な集団	
農家率 (内訳)		14.5%
	総世帯数	1,166戸
	農家数	169戸
販売農家数 (内訳)		169戸
	専業農家	60戸
	1種兼農家	50戸
	2種兼農家	59戸
主要作物 (農業産出額)	葉たばこ	612(百万円)
	いちご	133(百万円)
	水稲	90(百万円)
農用地の状況 (内訳)	耕地計	295ha
	田	103ha
	畑	185ha
	樹園地	
	耕地率	24.4%
	農家一戸当たり農用地面積	1.7ha

地域の特徴として、湊町岡と屋形石は水稻を中心にキャベツなどの葉物野菜、イチゴや葉たばこ、湊町浜は漁業、相賀は電照菊等の花き園芸が盛んであり、多くの農産物と魚介類に恵まれた新鮮な食材の宝庫である。

## 2. むらづくりの基本的特徴

### (1) むらづくりの動機、背景

湊地区は、昭和40年代にはキャベツやカンショ等の野菜の産地であったが、市場が整備されるとともに高齢化が進んだことから年々減少し、一方、漁業も、沿岸漁業の不振から漁獲高が減少し、安定的な収入を得るため、漁業をあきらめ勤めに出る人が増えていた。

こうしたサラリーマン家庭の増加に加え、少子高齢化や核家族化が進み、伝統行事を重んじる気風は残ってはいたが、地域の連帯感が希薄になってきている状況であったため、湊地区

の農業者で「湊営農推進対策協議会」（受益戸数238戸、受益面積302ha）が設立され、農業者自らがいろいろな考えを出し合い、工夫した農業の取組や住民のまとまった行動による湊地区の活性化を推進した。

本組織は地元では「営対」と呼ばれ、湊地区でできる多くのことに取り組んだ中で、湊地区の活性化と農業所得の向上を目的として平成2年に営対が設立した直売所は、女性の視点を活かすため平成3年から湊町岡の女性農業者の有志約40人で運営することとなった。任された女性たちは、「地元で採れた野菜を地元の人に」を目指して、「安全・新鮮・安い」をモットーに、グループでは張り切って取り組んだが、直売所を運営し始めて間もない平成3年9月の台風でプレハブの直売所が全壊するという事態が起こり、その打撃は大きく、再建は難しいと全員一度はあきらめかけたが、「せっかく始めた直売所をこのままでは終わらせられない。顔なじみのお客さんが待っている。」という強い思いから再建を目指すこととなった。

再建に向け、営対から資金を借り受け、平成4年5月に新しく「農産物直売所みなとん里」を設立し、地域の特徴を活かした直売所を目指し、湊町浜・屋形石・相賀の農業者及び漁業者にも声をかけ、花きや魚介類を含めた品揃えの充実を図った。

その結果、次第にお客さんからの評判も良くなり、口コミで客足が増えるとともに販売額も増加し、直売所関係者は売のおもしろさを感じるようになった。休日には、福岡方面からのお客さんで賑わうまでになり、出荷者数は100名を超え、平成10年の売上げは設立当初の約2倍の8千万円近くになった。平成9年頃、会員の中から「加工品を製造して販売してはどうだろうか」という話が持ち上がり、これをきっかけに、出荷者で農産物加工に興味をもった地元女性農業者有志17名で加工部を結成することとなった。

平成10年12月、直売所に隣接した場所に饅頭や漬物、味噌などの加工・販売ができる施設を整備し、名称を女性農業者にちなんで「かあちゃん加工部」と名付け、本格的に加工活動を開始した。



写真1 玄海みなとん里株式会社

平成4年頃、隣町に産廃処理場の建設計画が持ち上がり、それをきっかけに産廃問題だけでなく今後の地域全体の振興策を考えた結果、地区住民総意の基、平成15年に農産物直売所を地域振興の中核として位置づけることとし、店舗の移転・拡張が計画された。

その後、数年にわたり検討を重ね、平成21年7月に、従来の事務局であった農協から独立し、地域の産業振興を目的とすることから、4地区が株主となる「玄海みなとん里株式会社」として新たな組織としてスタートした。

## (2) むらづくりの推進体制

### ア 玄海みなとん里株式会社

「玄海みなとん里株式会社」は、現在、会員が200名を超え、65歳以上の高齢者会員が約8割を占め、会員の9割は女性である。また、農業者だけでなく漁業者の会員も多いのが特徴で、女性や高齢者のやりがいと生きがいにつながっている。

役員は、地元の区長等である理事6名で構成されており、任期は4年で、理事会で社長や執行部体制が検討され、毎年開催される総会で承認される。また、理事会を月1回程度開催し、出荷方針や商品構成、今後の運営計画等について検討を続けて、円滑な組織運営を行っている。また月に1回の売上実績検討会でのチェックや、商品に対する信頼性を高めるため、研修会等を通して安全で安心な農産物生産に努めている。

直売所のスタッフは10名で、店長1名、事務員1名が営業時間中は駐在し、レジは2箇所でお客様の多いときは販売員4名で対応している。

出荷者は、湊町岡・屋形石の野菜に加え、相賀の花、湊町浜の海産物と地域の特色を活かした商品を提供している。

### イ かあちゃん加工部

かあちゃん加工部は、平成10年に結成され、直売所に併設した施設で保健所の販売許可を取り、饅頭・漬物・味噌の販売に取り組んでいる。会員は、10名で2班のシフトで交代制としている。

開発した商品として「熟成かあちゃん味噌」「かあちゃん饅頭(小豆あん・芋あん・紫芋あん)」がある。饅頭は昔ながらの餡の甘みと生地を膨らませ方を試行錯誤しながら完成させ、会員の誰もが同じものを作れるようにしている。味噌はあくまでも安全と味にこだわり、材料は地元でとれた米と、唐津産の大豆を使用している。

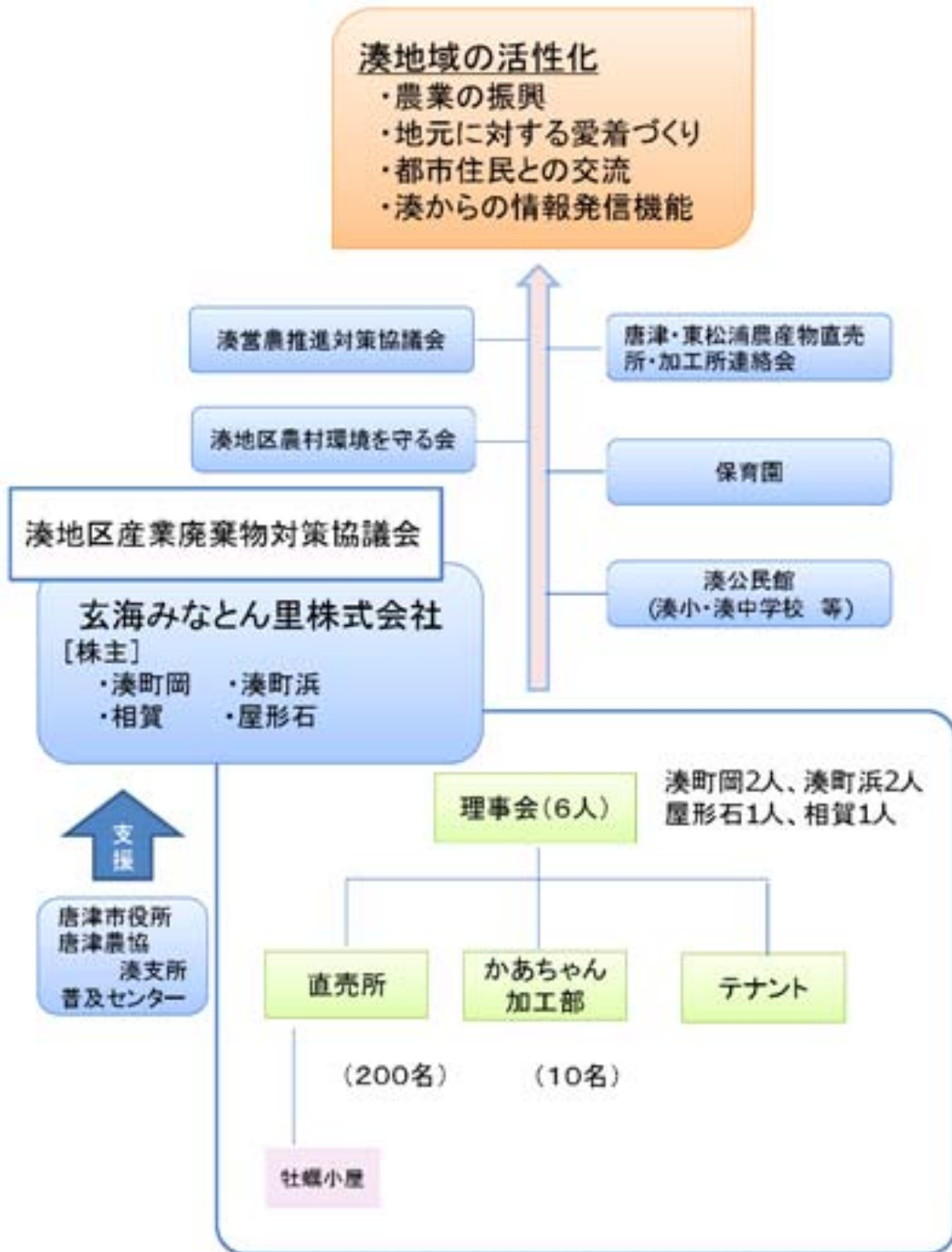


写真2 かあちゃん加工部の取組

「玄海みなとん里株式会社」に施設を拡充してからは、新たなメンバーも加わり、地域行事の際の紅白饅頭や仕出し弁当の予約注文にも応じている。

自分たちが子供の頃から食べてきた地元の味で、「地元の材料を有効に利用する」ことをモットーに商品を作っている。また、地元の湊保育園には、加工部で作った味噌やおやつを提供し、園児からも好評である。

第2図 むらづくり推進体制図



ウ その他関係する組織

(ア) 湊区(4区)

- (イ) 湊宮農推進対策協議会
- (ウ) 湊地区産業廃棄物対策協議会
- (エ) 唐津農協湊支所・Aコープ
- (オ) 湊公民館
- (カ) 湊保育園
- (キ) 唐津・東松浦地域農産物直売所・加工所連絡会
- (ク) 湊地区農村環境を守る会(農地・水・環境保全向上対策)

## ■ むらづくりの特色と優秀性

### 1. むらづくりの性格

ア 「玄海みなとん里株式会社」の会員（農家及び漁家）や加工グループが中心となって地場産品の販売に取り組み、兼業農家が大半を占める中、毎月の売り上げが10万円以上の会員が30名に達するなど、会員の所得拡大につながっている。

また、女性や高齢者のやりがい、生きがいにつながり、地域の農林水産業の活性化の原動力となっている。

イ 「玄海みなとん里株式会社」は地区住民の出資で設立されており、湊地区における買い物と住民相互の交流拠点の役割を果たしている。

さらには、会員である農家と漁家の交流の場にもなっている。

ウ 地元農産物を使った加工品では、農産物の有効活用と付加価値につながっている。

また、「熟成かあちゃん味噌」等を保育園に提供するとともに、地元の小中学校や老人ホームなどの給食へ野菜や加工品を納入するなど、地産地消にも貢献している。

エ 会員が「ふるさと先生」として、地元園児や小学生に米や味噌づくりを教えたり、農業体験を行う圃場を提供するなど、子供達への食農教育を積極的に推進している。

オ 湊の農産物や海産物の販売だけでなく、いちご収穫や地引き網などの体験を通じた交流や、観光スポットである七ツ釜や立神岩など多方面の情報発信を行っている。

さらに、各地区のイベントには積極的に出向き、販売とともに地区の情報発信を行っている。

### 2. むらづくりの農林漁業面への寄与状況

#### (1) 農業者・漁業者の所得向上

出荷者数は確実に増加し、平成18年で約100名に達し、新店舗になった現在では200名を超えている。湊町岡地区で始まった直売活動が相賀・屋形石・湊町浜にも拡大し、一定の販売額を確保することで、農家や漁家の所得向上に結びついている。

兼業農家が大半を占める中、毎月の売り上げが10万円以上の会員が30名にも達し、高齢者が多い会員の良き副収入となっている。商品の価格は自分たちで設定でき、消費者

と交流しながら収入につながるものが活動の励みとなっている。

## (2) 唐津市街地及び県外の消費者への地域特産品のアピール

直売活動が定着し、店舗整備が進んだことで、豊富な農水産物の品揃えが実現したアンテナショップの役割を果たす唐津市街地の日曜朝市にも出品しており、固定客が商品を待ちわびている状態である。

また、唐津の街中で開かれるイベントにも積極的に参加し、湊地区を理解してもらうとともに、会員にとっては接客の体験学習の場ともなっている。さらに、「玄海みなとん里株式会社」は、福岡市方面から、イカや朝市で有名な呼子町へ向かう途中にあるものの、

以前は、カーナビ画面上に表示されておらず、福岡市からの観光客を呼び込むためには、カーナビに直売所を登録することが不可欠であると考えた。店長や役員が中心となって、粘り強くカーナビ会社と交渉した結果、今ではカーナビに登録され、確実に来店者は増加し、リピーターも増加している。



写真3 掲載されたカーナビ画面

## (3) 女性農業者の販売による経営感覚の醸成

直売所設立当初、売上げの収支決算は、農協湊支所の担当者をお願いしていたが、会員自らが帳簿をつけることを目指し、平成11年度からは毎月の収支決算を自分たちで管理できるようになった。

毎月の売上げの中から会員17人が、一人5,000円ずつ返済しながら活動を続け、無事に返済が終了した時には、何事にも変えられない喜びとなり、その後の活動における自信につながった。

## (4) 新商品開発と販売ルート拡大による生産意欲の向上

「かあちゃん加工部」は、地元の食材でおいしく作ることを目指し、商品開発への努力を続けている。直売所だけでなく、唐津市街地での日曜朝市、Aコープからつの生産者直売コーナー、さらに、地元の保育園や小・中学校、老人ホームなどの給食へ野菜や加工品を納入するなど販売ルートの拡大にも取り組んできた。

その結果、「地域をはじめ、たくさんの家庭の食卓をみなとん里の野菜や加工品で飾りたい」という強い思いも抱くようになり、栽培面積などの拡大につながっている。

## (5) 女性たちの頑張りと応援する男性陣の協力体制

楽しく仲間と話しながら取り組む「かあちゃん」たちに、「とうちゃん」たちは大きな理解を示し、「かあちゃんたちを応援する会」を作って励ましてきた。

加工部ののぼりは同会が資金を出して揃えたものであり、加工所の大型冷蔵庫を入れるための倉庫も建設した。

このように、たくさんの人たちに支えられながら生産・加工に取り組んでいる。

### 3. むらづくりの生活・環境整備面への寄与状況

#### (1) 保育園での食農教育と地産地消

かあちゃん加工部の饅頭を園児のおやつとして提供したことがきっかけで、加工部の2名が「ふるさと先生」として保育園の食農教育に参加している。

今後も給食やおやつを提供しながら、食農教育の講座や体験等の活動を継続的に計画している。



写真4 食農教育への取組

#### (2) 学習活動との連携と支援

小中学校の総合学習活動の一環として学校側と連携し、年間を通じた農業体験の受皿として取り組んでいる。

また、職業体験実習や水稻・野菜の農業体験学習などを通じて小中学生の学習活動を支援するとともに、「玄海みなとん里株式会社」の取組や地域に果たす役割が教材として取り上げられた。

#### (3) 地域住民への買い物と交流の場づくり

農協の組織再編が進み、湊地区に3店舗あったAコープが湊支所に統合され、高齢者が気軽に買い物に行ける店が減少してきた。

このため、直売所と同じ敷地内に農協湊支所、Aコープ、コインランドリーを併設するとともに、直売所には直営の牡蠣小屋や魚屋、食事処を整備することで湊地区における買い物と人々が交流する拠点となっている。